

14

日本という国「算額さんがく奉納」

日本を見つめ直し、楽しく生活、仕事しましょ、シリーズ。

江戸時代、他の国と異なり、平和で豊かな生活が長く続き、世界で類例のない農民を含む庶民の知識欲の高まりが起こりました。藩校を除く寺子屋・私塾は全国で16800以上あり、皆楽しく学んでいたようです。

算額奉納は和算の問題や解法を記して寺社に奉納するものですが、問題の発表者と、受手の回答者をつなぐ社会的な娯楽の場でもありました。

※現在も算額奉納の伝統は続いています。

このような風習は他国に例がなく、日本独特のもので、明治維新後の西洋数学の国民の受け入れを容易にしました。

和算は江戸時代に急速に発展したのですが、その発展に最も貢献した人が関孝和せきたかかずでした。代数の計算法を発明し、高等数学の基礎を作り、世界でも最も早い時期に行列式、終結式概念を提唱し、 Δ^2 乗加速法が西洋で発見される200年前に使用し、ベルヌーイの前にベルヌーイ数を見つけていました。

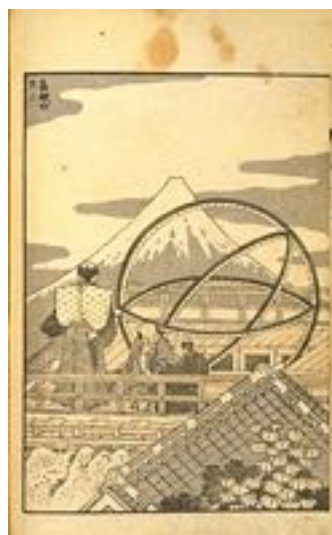
和算は全国の藩校、塾、寺子屋で学ばれ、実学としても広がり、地図・暦の作成、堤防などの土木工事・水路の管理、徴税業務、織物の模様パターンの数値化等、日本の工業技術に関わる生活基盤は高度化して行きました。

トロイの遺跡発掘で有名なシエリーマンは幕末動乱の1865年日本に滞在し、詳細な記録を残していますが、日本について、「もし、文明という言葉が物質文明を指すなら、中略、日本は蒸気機関を使わずに達することのできる最高の完成度に達している」と評しています。

しかし、実はシエリーマンが来日する6年前、1853年にペリーの黒船が来てからわずか6年後には、薩摩藩・鍋島藩・伊予宇和島藩がそれぞれ西洋の指導を受けず、独自に黒船（蒸気戦闘艦）を完成させていました。



算額奉納絵馬



「富岳百景」浅草天文台



和算に恋した少女 (ビッグコミック)